

UD 視点 7 教材・教具

「わかる、できる」授業を目指すためには、多様な学び方をしている児童生徒に配慮し、学級の実態に合わせて、教材・教具の効果的な選択や有効な活用を行うことが必要です。教材・教具の提示の仕方や、材料、道具、用具の準備、自作プリントやワークシートの工夫を行うことで、児童生徒にとっての学びやすさにつながり、より学習効果を高めることが期待できます。

児童生徒の困っている状況 UDの視点による支援や配慮のポイント

① 提示する内容をよりわかりやすくするための教材・教具を工夫している。 (具体物・写真・絵・動画、ICT（視聴覚）機器など)



学習内容の理解が十分でない、興味・関心が薄い、積極的に活動していない



資料を提示する際に、児童生徒の興味を引きつけるためには、どんな教材・教具を用いればわかりやすく伝えることができるかを考えることが大切です。

なお、教材・教具を提示する際には、特に、形・色彩・大きさ・材質・デザインなどに留意しましょう。

<教材・教具の提示の仕方 例>

- 具体物（実物や見本）を用いて、五感で感じさせる。
- 拡大した写真や絵を用いて、イメージを膨らませる。
- ICT機器やその他視聴覚機器を用いて、視覚情報や聴覚情報を複合的に提示し理解させる。

<ICT機器の活用 例>

- 実物投影機を活用して、資料や児童生徒のノートなどを拡大して提示する。
- WEBサイトを利用して、日頃体験できない内容の動画や画像を見せる。



地図と写真(小学校)



OHP(中学校)



実物投影機(高等学校)

② 児童生徒の発達段階に応じて、材料、道具、用具を準備して活用している。



なかなか活動や作業がはかどらない、扱い方や使用方法に手間取っている



「わかる、できる」授業を行うためには、児童生徒の学習に適した材料、道具、用具などの準備が必要です。

それらを教師が準備する場合には、発達段階や学習課題に応じた配慮が必要です。

また、児童生徒に準備させる場合には、家庭にも目的や意図を伝えることが大切です。



図画工作(小学校)

③ 学習で使うプリントやワークシートは、読みやすく書きやすいように工夫している。

 書き方がわからない、書く時間がかかりすぎている、教師の意図と違った内容を書いている

 学級すべての児童生徒にとって、読みやすく書きやすいプリントやワークシートになっているかを見直し、改善を図ることで、「わかる、できる」授業につなげていくことができます。

なお、授業後にプリントやワークシートをファイルに綴じさせたり、ノートに貼らせたりして、授業を振り返りやすくしておくことも大切です。

<読みやすく書きやすいプリントやワークシートのポイント 例>

- 板書と一致したプリントやワークシートになっているか。
- 紙面のレイアウトは適当か。
- 問題量は妥当か。
- 設問の指示や説明はわかりやすいか。
- 設問に対応した枠になっているか。(数・大きさ・位置)
- 文字の大きさや字体に配慮しているか。
- 単元で使うプリントやワークシートの様式や活用の仕方に一貫性があるか。

黒板を3分割した板書に対応したワークシート(中学校)

④ 児童生徒の実態に合わせた対応ができるような教材を準備している。(基礎や応用、発展など)

 問題が難しすぎてあきらめている、問題を解き終えて時間を持て余している

 配慮を要する児童生徒にとって、周囲の児童生徒と同じ教材では、うまく取り組めない場合があります。

学級全体においても、児童生徒一人一人の実態を考慮すれば、全員が同じでなく、段階的な教材が必要と考えられる場合があります。

学級の児童生徒の実態に合わせ、複数の課題の設定を吟味した上で、あらかじめそれらに対応した教材を準備しておくことで、改善が期待できます。

問題プリントとヒントカード(小学校)

<児童生徒の実態に合わせた対応ができる教材 例>

- 児童生徒の理解度に応じた問題プリントとヒントカード
- 基礎となる課題が終わった児童生徒のための応用プリント
- 本時の課題が終わった児童生徒のための発展課題

実態に合わせた対応ができるプリント(小学校)